ミテジマ化学

可食素材使った繊維加工開発

ウール防縮や保湿など

繊維薬剤などを販売するミテジマ化学（大阪市西淀川区）は、食品添加物などを使った機能性繊維加工「エディブル トリートメント」を開発した。生分解性を持つ可食性素材の応用によって環境負荷低減に貢献し、消費者や製造者の安心・安全にもつなげる。ウール防縮や保湿性付与が可能で、早ければ今年中に加工剤の販売を始める。

食品添加物や食品素材は大半が水溶性のため、洗濯耐久性の観点から繊維加工への応用は困難とされてきた。酸性の食品添加物が多いことから非皮膚低刺激性への対応が求められ、既存加工工程・技術で製造可能かどうかという課題もあった。同社は食品と繊維の両方の技術を組み合わせてそれらを克服した。

現状で展開できるのは、ウールのピリング抑制・防縮と洗濯耐久性を持つ保湿加工。ウールのピリング抑制・防縮では、前処理と欧州で使われる特殊酵素・タンパク質処理で、半導体をはじめ、エレクトロニクス産業の景気への減速感が漂う。

「消費者と製造者の安心・安全を守る」と末常社長

洗濯耐久性の観点から繊維加工への応用は困難とされてきた。酸性の食品添加物が多いことから非皮膚低刺激性への対応が求められ、既存加工工程・技術で製造可能かどうかという課題もあった。同社は食品と繊維の両方の技術を組み合わせてそれらを克服した。

現状で展開できるのは、ウールのピリング抑制・防縮と洗濯耐久性を持つ保湿加工。ウールのピリング抑制・防縮では、前処理と欧州で使われる特殊酵素・タンパク質処理で、半導体をはじめ、エレクトロニクス産業の景気への減速感が漂う。

渡辺英治社長は「受注が減ったわけではないが、スポット需要がなくなり、より実需的な数字になった」と説明する。このため19年12月期の上半期売上高は、前年同期比で微減収だったが、通期では計画を達成する見通し。

半導体業界以外で防じん衣を着用する業種は化粧品、食品、製薬工場などがある。特に食品工場では、食品衛生管理の国際基準「HACCP（ハサップ）」の導入義務付けを前に、ユニフォームを見直す工場も多い。渡辺社長は「食品工場向けにツナギ服やフード一体型のウエアを提案する機会が増えた。今後の受注につなげたい」と話す。

食品工場向けの防塵衣の受注も多い

生産面にも変化が表れている。特にASEAN地域の生地や付帯加工の品質が向上したため、今後はタイやベトナムの生地も採用を検討する。「製品の短納期化が求められるので、ポリエステル素材を中心に用途に応じて積極的に検討、採用していきたい」（渡辺社長）と言う。

外国人技能実習生の帰国後の就労もフォローする。同社は埼玉県加須市の工場で毎年6人ほどの実習生を採用している。

現在は、ベトナムに帰国した実習生数人と個別に契約を結び、現地工場での品質管理や、新たにラインを立ち上げた時の通訳兼技術者として協力してもらっている。渡辺社長は「実習生としての3年間で信頼関係を築き、品質基準を理解してもらっている。助けられることも多いので継続して採用し、協業もしていきたい」と話す。

ガードナー

半導体以外の販路拡張

実習生 帰国後もフォロー

防塵衣メーカーのガードナー（埼玉県加須市）は、主力の半導体産業に加え、塗装や化粧品、食品工場などへの新たな販路拡張を進めている。採用企業の業種を広げ、2020年度中には全商品に占めるユニフォームの割合を8割まで引き上げる目標を立てる。

ガードナーは自社ブランドの防じん衣「アドクリーン」を製造し、多くは半導体産業で採用されている。ただ、昨年から続く米中貿易戦争の影響で、半導体をはじめ、エレクトロニクス産業の景気への減速感が漂う。

渡辺英治社長は「受注が減ったわけではないが、スポット需要がなくなり、より実需的な数字になった」と説明する。このため19年12月期の上半期売上高は、前年同期比で微減収だったが、通期では計画を達成する見通し。

半導体業界以外で防じん衣を着用する業種は化粧品、食品、製薬工場などがある。特に食品工場では、食品衛生管理の国際基準「HACCP（ハサップ）」の導入義務付けを前に、ユニフォームを見直す工場も多い。渡辺社長は「食品工場向けにツナギ服やフード一体型のウエアを提案する機会が増えた。今後の受注につなげたい」と話す。

生産面にも変化が表れている。特にASEAN地域の生地や付帯加工の品質が向上したため、今後はタイやベトナムの生地も採用を検討する。「製品の短納期化が求められるので、ポリエステル素材を中心に用途に応じて積極的に検討、採用していきたい」（渡辺社長）と言う。

外国人技能実習生の帰国後の就労もフォローする。同社は埼玉県加須市の工場で毎年6人ほどの実習生を採用している。

現在は、ベトナムに帰国した実習生数人と個別に契約を結び、現地工場での品質管理や、新たにラインを立ち上げた時の通訳兼技術者として協力してもらっている。渡辺社長は「実習生としての3年間で信頼関係を築き、品質基準を理解してもらっている。助けられることも多いので継続して採用し、協業もしていきたい」と話す。

オー・ジー長瀬カラーケミカル

繊維の新加工 紹介も

テキスタイルアカデミー開催

オー・ジー長瀬カラーケミカルは25日、「第4回ONCテキスタイルアカデミー」を千葉セクローバル人材開発センター（東京都渋谷区）で開いた。同社によるテキスタイル製品への新機能提案のほか、日本流行色協会（jafca）などによる講演も実施した。

多くの人が参加

グループの商品を紹介したのがオー・ジー長瀬カラーケミカル。オージーフィルム（神奈川県山北町）のポリエステル透湿防水フィルム「プリーステック」の特徴と利点を解説したほか、NAGASEグループのRFID（無線通信による商品の個別管理システム）事業への取り組みを説明した。

化学品メーカーのミテジマ化学（大阪市西淀川区）は、可食性素材を使った機能性繊維加工を紹介。化学メーカーの山田化学工業（京都市）は、「世界を変える草花と金属の出会い―染料化学の歴史と未来―」と題した講演を行い、機能性色素の可能性に言及した。

jafcaは2020～21年に求められる機能などについて語り、「参加できる&出入り自由」「伸びる」「強める」「弾性、回復力」「本質」「見たことのない」などがポイントになると指摘した。

オー・ジー長瀬カラーケミカルは25日に東京都内で開いた「第4回ONCテキスタイルアカデミー」で発表した。末常裕治社長は「繊維薬剤や食品添加物を展開する化学品メーカーとして繊維と食品の両方を知っているのが強み。サスティナビリティー（持続可能性）に貢献できる加工として積極提案する」と語った。

オー・ジー長瀬カラーケミカル

繊維の新加工 紹介も

テキスタイルアカデミー開催

オー・ジー長瀬カラーケミカルは25日、「第4回ONCテキスタイルアカデミー」を千葉セクローバル人材開発センター（東京都渋谷区）で開いた。同社によるテキスタイル製品への新機能提案のほか、日本流行色協会（jafca）などによる講演も実施した。

グループの商品を紹介したのがオー・ジー長瀬カラーケミカル。オージーフィルム（神奈川県山北町）のポリエステル透湿防水フィルム「プリーステック」の特徴と利点を解説したほか、NAGASEグループのRFID（無線通信による商品の個別管理システム）事業への取り組みを説明した。

化学品メーカーのミテジマ化学（大阪市西淀川区）は、可食性素材を使った機能性繊維加工を紹介。化学メーカーの山田化学工業（京都市）は、「世界を変える草花と金属の出会い―染料化学の歴史と未来―」と題した講演を行い、機能性色素の可能性に言及した。

jafcaは2020～21年に求められる機能などについて語り、「参加できる&出入り自由」「伸びる」「強める」「弾性、回復力」「本質」「見たことのない」などがポイントになると指摘した。

アマゾンが東コレから撤退

代替スポンサーは未定

アマゾンジャパン（東京都目黒区）が、17春夏シーズンから務めてきた東京ファッション・ウィークの冠スポンサーから正式に撤退した（本紙4月9日付既報）。6月25日午後の時点で代替スポンサーの発表はなく、同ウィークを主催する日本ファッション・ウィーク推進機構（JFW）では「スポンサー選定についてはコメントできない」と話す。

アマゾンのファッション部門、アマゾンファッションが実施するデザイナー支援プログラム「アット・トウキョウ」は継続する。アマゾンファッションでは「東京のファッション・ウィーク通じ、ファッション業界を支援する」とコメントしている。

一方、ファッション・ウィークの冠スポンサー料は年間1億円程度とみられ、その分、運営費が消失する。アマゾンが消えたJFW公式ウェブサイト上では、ウィークの名称が「東京ファッション・ウィーク」（TFW）になっている。

ガードナーはフードディフェンスを

ICタグでご提案致します。

ガードナーは『クリーン化』はもちろん、作業する方の『安全性』『快適性』に配慮したモノづくりを行っています。また、ICタグによる「運用サポート」や評価試験そして広域認定の「リサイクルシステム」に至るまで総合的な運用力をお届けします。

ICタグ管理は
①入退室管理
②洗浄履歴管理
③滅菌管理
④ユニフォーム貸出管理
さまざまな活用方法がございます。

コインタグは国際標準であるISO15693に準拠しています。比較的長い通信距離が取れ、機能が簡易であるためコストを抑えることが可能です。

ADCLEAN アドクリーン

株式会社ガードナー
http://www.guardner.co.jp